

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 952 号	氏名	吉見 知子
学位審査委員	主 査	村田 比呂司	
	副 査	藤原 卓	
	副 査	筑波 隆幸	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究の目的は、マウスを用いた機能解析による詳細な咬筋および側頭筋の役割の解明と、咀嚼時、特に閉口相における咬筋および側頭筋の協調運動のメカニズムの解明である。口腔運動疾患の病因・病態解析の比較対象となる正常マウスの咀嚼運動パターンは未だ十分に解明されておらず、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>本研究は、選択的な筋の機能低下を誘発するためにボツリヌストキシン(BoNT/A)を使用した。BoNT/A は、筋切除や神経切断とは異なり、広範な侵襲や瘢痕を引き起こすことなく筋の機能低下を誘発することが可能である。同一個体のマウスで BoNT/A 注入前後を比較している点は、研究手法として適切である。また、マウス下顎運動計測には計測精度の高いホール素子とネオジム磁石を、筋活動計測には表面電極ではなく針電極を使用し、高精度の解析を行っている。さらに、適切な統計解析も行われており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究は、マウスにおける選択的な咀嚼筋の機能低下を引き起こすことで、咬筋および側頭筋の詳細な役割の解明と、咬筋および側頭筋の協調運動は、咀嚼効率の向上に寄与することが示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が期待できる。</p> <p>以上のように本論文は、正常マウスの咀嚼運動パターンの解明により、今後、疾患モデルマウスを用いた口腔運動疾患の病因・病態解析研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			